

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300545		
法人名	医療法人 渋藤医院		
事業所名	グループホーム 佐伯		
所在地	岡山県和気郡和気町父井原434-5		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 3 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた静かな所です。散歩等に行き、四季の移ろいを感じながら暮らしています。近くにはコンビニ、サエスタ、郵便局、農協、ガソリンスタンド、歯科医院があり、敷地内には母体法人の医療機関があり、緊急時には医師によりすぐに対応出来安心です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372300545-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院ということもあり、普段の往診はもちろんのこと急変時にも対応して頂いている。利用者の体調に変化があった際には、医院長がすぐに駆けつけてくれたこともあり、職員・家族・利用者の安心に繋がっている。食事職員と利用者が同じ場所で会話をしながら食すことで、美味しさが増し、利用者からは「この食事は美味しく、最高です。」との一言が聞けた。さらにフードロスが出ないように、余った牛乳やジュースを使って、おやつ作りが好きな職員が寒天やフルーツを振舞ったことがあり、利用者に好評だった。季節が変わる毎に筆を持ち、力強く書かれた書道の作品がリビングに飾られていた。書道の作品だけではなく、採点された計算問題、塗り絵など利用者が作成した作品をポートフォリオすることで、生きた証を刻んでいた。利用者が家族と会えない日々が続く中で、寂しい思いをさせないように、コミュニケーションを多く取ったり、できるだけリビングで過ごして頂けるように午前・午後の2回レクを取り入れる工夫が見られた。コロナ終焉後には、家族会を再開し、一緒に食事ができることが待ち遠しく、らっきょポテトサラダを作ってみたくと管理者は語っていた。そんな季節や旬を感じさせる施設となっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム佐伯の理念として、安全に安心してご自分らしく、仲間と一緒に地域の一人として暮らせるよう笑顔でお手伝いしています。	各事務所とリビング、玄関には手作りの理念を掲示している。職員会議や委員会にて振り返りの場を設けていて、チェックリストを使う事で再確認することができている。新入職者には、管理者から仕事内容を説明して、職員と一緒に働くことで、理念に沿ったケアができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの為に中止しているが、行事報告等を行っている。	3ヶ月に1回、地域密着会議にて、他のGHの方との交流がある。現在はZOOMにて開催している。昨年度は、近隣の学び館に作品展示をして見学にも行った。その際に、知り合いの方との交流もあった。以前は、近くのコンビニにパンを買いに行く利用者もいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為に中止しているが、行事報告等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為に、2ヶ月に1回GHのみで取り組み役場に行氏予定や行事報告ヒヤリハットなどを提出している。	コロナ以前は、介護保険課、民生委員、家族代表と利用者が参加していた。現在は、介護保険課の方に書面にて郵送している。入居状況、行事報告、ヒヤリハット、事故報告を行っている。	運営推進会議を有意義な場とするために、意見を反映できるように工夫してみたいかがある。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に電話で役場と連絡を取り連携を図っている。	窓口は両ユニットの管理者で電話でのやり取りが多い。書類の提出でわからないことがあり、質問したら親切・丁寧に教えてくれた。役場に書面を持参することで face to face の関係が継続できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとに身体拘束委員会を開き、質の維持と向上に努めている。どうしても必要な場合は、医師の指示のもと、家族の了承を得ている。	身体拘束と虐待の研修を同時にしている。GH内で起こった事例を取り上げて、意見を出し合い、資料を配布した勉強会も行っている。内部研修は、管理者が中心となり、外部研修では、参加した職員が持ち帰った情報を、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月ごとに委員会を開き、職員全員が虐待のないよう、事業所内での虐待が見過ごされることがないように、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの為、機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際は、十分な説明を行い、不明点、疑問点があれば理解していただけた様になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望を聞き、家族には状況を報告し、面会時や家族会等で意見交換をしている。	玄関のドア越しで面会を開催し、大人数で来られた場合は、医院長の許可を得た上で、屋外・短時間で実施している。その際に、利用者の様子を伝えている。家族が手作りの柚子みそやケーキを持って来て、美味しそうに頬張っている利用者の姿が目につかんで来た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。出された意見はケアの方法や勤務体制の見直しに反映している。去年からは海外の方も職員として勤務している。	月1回の職員会議にて、意見や提案を聞き取っている。管理者がゲートキーパー役となり、職員の意見を聞いていることが離職率の低さに繋がっている。新しい入居者のケアについて、職員間で意見を出し合うことで、利用者寄り添ったケアとなっている。出た意見は、介護日誌や申し送り時に、職員間で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得による給料アップや研修への参加や勉強会で自己啓発を勧めたり、パートの人には希望の勤務日数に配慮をしたり、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自が資格の向上や研修の参加、月に1度は勉強会をしている。それぞれが自己啓発できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議はオンライン会議にて、3ヶ月に1回、実施している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時より、本人とのコミュニケーションを密にし、何でも話せて不安なく安心して過ごせるよう、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、要望や困っていることを聞き、利用者の日頃の状態を報告して安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態や家族の要望等をしっかり把握した上で、今必要としている支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を利用者が家族のような関係を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会ができない為、家族との連絡は職員・利用者とも電話で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていないが、コロナがおさまってから近隣の散歩や買い物に行き、楽しみを増やしていきたい。	リビングのソファや事務所の中が馴染みの場所となり、悩みごとの相談をする方もいる。毎週の競馬予想や鶴を折るのが楽しみな方もいる。職員の名前を呼ぶことで利用者に安堵感が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することのないよう、職員も利用者の中に入って、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの会話や一日の過ごし方等から本人の思いや今までの暮らし等の把握をし意向に沿えるよう努めている。	入居時に既往歴や生活歴を確認している。言葉を発しない方へは、日常生活の様子を職員から聞き取りをして把握している。お風呂では世間話や会話が弾むことが多い。「家族に会いたい」という利用者へは、医院長の下承の基、会う機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、一人ひとりの生活歴を把握し、職員間で共有し、サービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや排泄チェック等を行い、介護記録や食事量等をスタッフ全員で把握し、一人ひとりの心身状態、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状況を把握し、今後の課題とケアについて職員間で意見を出し合い、現状に合ったプランを作成している。また、状況に応じて医師に相談している。	介護計画は、入居時、1ヶ月、3ヶ月、半年で作成している。ドクターや家族の意見を参考にして、プランを立て、その際に同意書を交わしている。半年に1度モニタリングを実施し、カンファレンスにて職員間で意見交換をしている。介護記録は全職員がわかるように、略号を使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の生活状況や実践結果を記録して職員間で情報を共有し、サービスに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないこと、柔軟な対応を心がけ、ニーズに応じたサービスの提供に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていないので公共施設から地域資源の活用方法を学びたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診している。夜間や急変時の対応や必要時には入院対応もできる母体の医療機関との関係も円滑である。	入居時に全員の方が、併設する母体の医療機関に転医しているが、元のかかりつけ医を受診されている方もいる。週2回、理事長の往診がある。利用者の体調に変化があった際には、すぐに駆けつけてくれたこともあり、職員・利用者の安心に繋がっている。他科や歯科受診は、家族が連れて行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である医院の看護師が相談や痰吸引等の処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には看護師との情報共有を行い、入退院をスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族との話し合いを行う中で、家族の希望を踏まえて、先生の方針もあるのでその状況に応じて対応している。	看取りは実施している。入居時に看取りの指針にて説明し、同意を得ている。看取り期に差し掛かった場合には、医院長の意見を聞いた上で判断している。母体の病院が併設しているので、安心して任せることができている。看取り研修も実施していて、終末期の迎え方や延命治療について学びを深めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には母体の医院の院長の指示を仰いでいる。避難訓練時、消防署に依頼し、応急手当や初期対応の訓練を受け、実践力を身につける様に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で災害時や夜間の訓練も利用者と共に、避難経路・避難方法を確認している。地域との協力体制を築いて行きたい。水・食料は3日間分程度確保している。	年2回昼想定で火災訓練をコロナ対策をした上で実施した。防災計画は、直接持参している。連絡網は事務所に掲示し、避難経路は訓練時に確認している。備蓄は、水や食料、栄養補給ドリンクを3日分程度、食堂で保管しているが、併設する厨房にも備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をスタッフ間で注意し合いながら心掛けている。	基本呼称は苗字に「さん」付け。職員と同性の利用者は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。反応がいい場合には、別の呼び方をする場合もある。居室を掃除する際には、「掃除するね」と言葉を掛け、ノックをしてから入室している。トイレにカーテンをかけることでプライバシーの配慮もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を汲み取り、自己表現・自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、こちらのペースに合わせるのではなく、ご本人の思いを大切に、ご自分らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容師に希望の髪型にしてもらったり。入浴時には好みの洋服を職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立に基づき、職員が手作りしている。職員と一緒におやつ作りをしたりしている。後片付け・掃除も手伝っている。	併設する厨房が献立を考えて、下準備もして頂ける。調理は施設内でして、職員も一緒に食卓を囲んで食べることで、会話が弾んでいた。行事食として、巻き寿司やケーキ、日曜日にはデザートも提供する。コップ、茶碗やお箸(スプーン)は馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた献立を栄養士が作成している。牛乳以外にも野菜ジュースも飲んでいる。食事量低下の時にはドクターの指示で栄養補助食品も摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後行い、清潔保持に努めている。また、定期的に義歯洗浄剤を使用し、除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者の排泄リズムを把握し、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導やパット交換をしている。	排泄チェック表を活用し、便が出ていない方へは医師と相談している。1日中、布パンツで過ごしている方も数名いて、紙パンツで入居された方が、布パンツに改善された事例もある。食事前や車イスの方へは、職員から言葉掛けをすることでトイレ誘導ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳や野菜ジュースの飲料や適度な運動も心掛けている。献立も野菜が多く摂れるメニューになっている。それでも排便がない時は、薬剤によりコントロールも行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。無理強いはせず、時間やタイミングを見ながら声かけし、気持ちよく入浴できるよう努めている。足浴やシャワー浴、清拭等個々に沿った支援をしている。	週2回。2階の浴室はジャグジーがついていて、入浴が楽しみな方もいる。入居時にシャワー浴しかできなかった方が、湯船に浸かれるようになった事例もある。現在、入浴を拒否される方はいない。入浴されなかった方へは、足浴をしながら、清拭をして清潔感を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、日中でも居室で休まれたり、夕方でも外出後に休まれたりする。就寝前には必ずトイレを済ませるよう声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を把握し、きちんと服薬できるよう支援している。利用者別の薬一覧があり、職員も効能を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いが出来る方には決まった役割を持ってもらい、毎日のレク活動やカラオケ、季節の行事、誕生日会、おやつ作り等、楽しみや気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出は控えているが、外に洗濯物を干したり、庭で煙草を吸ったりしている。	リハビリ体操の後、広いリビングを活かして歩行訓練をしている。毎日のレクも豊富で、午前・午後の2回開催しており、玉入れ、輪投げ、脳トレ、塗り絵、ちぎり絵、歌、習字をすることでフラストレーションが溜まらないようにしている。お正月には、すごろくや福笑いを楽しんだり、春には、施設内で咲いた桜の花を見たりして過ごしている。	室内でも外出した気分が味わえる工夫をしてみたいかがでしょうか。また、コロナ終焉に向けて、今から外出計画を立ててみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方の預り金は実施していないが、要望により数人の方の預り金を行い、欲しい物を職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により、その都度家族に連絡を取る支援を行っているが、電話は家族の負担にならない程度にしている。希望により、競馬の賭け事の楽しみも毎週土・日にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の間のフロアは広く、ベランダの窓が高いので明るく遠くまで景色を眺めることができる。フロアでは歩行訓練をしたり、運動会等の行事を行っている。つるし飾、ちぎり絵等、季節ごとに変えて四季を感じられるよう工夫している。	リビングの窓から見える長閑な田園風景が、利用者の癒しとなっている。元気よくリハビリ体操をしたり、歩行訓練器具使うことで健康維持に努めている。1階の壁面は、紅葉をイメージした利用者の手形を集めて作った木の作品が飾られていた。2階は安全に配慮してソファを固定したり、柵を設けたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは隣に座った方と談話したり、テレビを観たり、一人窓辺で外の景色を見たり、フロアを散歩しながら貼ってある写真を見たりと、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使っていた馴染みの物を置いたり、家族の写真やぬいぐるみ等を飾っている。職員手作りの誕生日カードを飾ったりと、利用者が穏やかに過ごせるよう雰囲気作りをしている。	備え付けは、エアコン、ベッド、ダンス。誕生日には、職員からプレゼントされた色紙が飾られていて、100歳まで生きる目標となっている。1日のスケジュールや持ち物表を貼ることで、利用者の動きがわかるような工夫が見られた。居室内では、ゆっくりTVを観て過ごしたり、毎週の競馬予想を楽しんだりしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには歩行や移動の際に妨げになる様な物を置かない様にして、安全に自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300545		
法人名	医療法人 渋藤医院		
事業所名	グループホーム 佐伯		
所在地	岡山県和気郡和気町父井原434-5		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 3 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた静かな所です。散歩等に行き、四季の移ろいを感じながら暮らしています。近くにはコンビニ、サエスタ、郵便局、農協、ガソリンスタンド、歯科医院があり、敷地内には母体法人の医療機関があり、緊急時には医師によりすぐに対応出来安心です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372300545-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院ということもあり、普段の往診はもちろんのこと急変時にも対応して頂いている。利用者の体調に変化があった際には、医院長がすぐに駆けつけてくれたこともあり、職員・家族・利用者の安心に繋がっている。食事でも職員と利用者が同じ場所で会話をしながら食することで、美味しさが増し、利用者からは「この食事は美味しくて、最高です。」との一言が聞けた。さらにフードロスが出ないようにと、余った牛乳やジュースを使って、おやつ作りが好きな職員が寒天やフルーツを振舞ったことがあり、利用者にも好評だった。季節が変わる毎に筆を持ち、力強く書かれた書道の作品がリビングに飾られていた。書道の作品だけではなく、採点された計算問題、塗り絵など利用者が作成した作品をポートフォリオすることで、生きた証を刻んでいた。利用者が家族と会えない日々が続く中で、寂しい思いをさせないように、コミュニケーションを多く取ったり、できるだけリビングで過ごして頂けるように午前・午後の2回レクを取り入れる工夫が見られた。コロナ終焉後には、家族会を再開し、一緒に食事ができることが待ち遠しく、らっきょポテトサラダを作りたいと管理者は語っていた。そんな季節や旬を感じさせる施設となっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム佐伯の理念として、安全に安心してご自分らしく、仲間と一緒に地域の一員として暮らせるよう笑顔でお手伝いしています。	各事務所とリビング、玄関には手作りの理念を掲示している。職員会議や委員会にて振り返りの場を設けていて、チェックリストを使う事で再確認することができている。新入職者には、管理者から仕事内容を説明して、職員と一緒に働くことで、理念に沿ったケアができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為に中止しているが、行事報告等を行っている。	3ヶ月に1回、地域密着会議にて、他のGHの方との交流がある。現在はZOOMにて開催している。昨年度は、近隣の学び館に作品展示をして見学にも行った。その際に、知り合いの方との交流もあった。以前は、近くのコンビニにパンを買いに行く利用者もいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為に中止しているが、行事報告等を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為に、2ヶ月に1回GHのみで取り組み役場に行氏予定や行事報告ヒヤリハットなどを提出している。	コロナ以前は、介護保険課、民生委員、家族代表と利用者が参加していた。現在は、介護保険課の方に書面にて郵送している。入居状況、行事報告、ヒヤリハット、事故報告を行っている。	運営推進会議を有意義な場とするために、意見を反映できるように工夫してみたいかがある。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に電話で役場と連絡を取り連携を図っている。	窓口は両ユニットの管理者で電話でのやり取りが多い。書類の提出でわからないことがあり、質問したら親切・丁寧に教えてくれた。役場に書面を持参することで face to face の関係が継続できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとに身体拘束委員会を開き、質の維持と向上に努めている。どうしても必要な場合は、医師の指示のもと、家族の了承を得ている。	身体拘束と虐待の研修を同時にしている。GH内で起こった事例を取り上げて、意見を出し合い、資料を配布した勉強会も行っている。内部研修は、管理者が中心となり、外部研修では、参加した職員が持ち帰った情報を、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月ごとに委員会を開き、職員全員が虐待のないよう、事業所内での虐待が見過ごされることがないように、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの為、機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際は、十分な説明を行い、不明点、疑問点があれば理解していただけた様になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望を聞き、家族には状況を報告し、面会時や家族会等で意見交換をしている。	玄関のドア越しで面会を開催し、大人数で来られた場合は、医院長の許可を得た上で、屋外・短時間で実施している。その際に、利用者の様子を伝えている。家族が手作りの柚子みそやケーキを持って来て、美味しそうに頬張っている利用者の姿が目につかんで来た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。出された意見はケアの方法や勤務体制の見直しに反映している。去年からは海外の方も職員として勤務している。	月1回の職員会議にて、意見や提案を聞き取っている。管理者がゲートキーパー役となり、職員の意見を聞いていることが離職率の低さに繋がっている。新しい入居者のケアについて、職員間で意見を出し合うことで、利用者寄り添ったケアとなっている。出た意見は、介護日誌や申し送り時に、職員間で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得による給料アップや研修への参加や勉強会で自己啓発を勧めたり、パートの人には希望の勤務日数に配慮をしたり、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自が資格の向上や研修の参加、月に1度は勉強会をしている。それぞれが自己啓発できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議はオンライン会議にて、3ヶ月に1回、実施している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時より、本人とのコミュニケーションを密にし、何でも話せて不安なく安心して過ごせるよう、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、要望や困っていることを聞き、利用者の日頃の状態を報告して安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態や家族の要望等をしっかり把握した上で、今必要としている支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を利用者が家族のような関係を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会ができない為、家族との連絡は職員・利用者とも電話で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていないが、コロナがおさまってから近隣の散歩や買い物に行き、楽しみを増やしていきたい。	リビングのソファや事務所の中が馴染みの場所となり、悩みごとの相談をする方もいる。毎週の競馬予想や鶴を折るのが楽しみな方もいる。職員の名前を呼ぶことで利用者に安堵感が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することのないよう、職員も利用者の中に入って、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの会話や一日の過ごし方等から本人の思いや今までの暮らし等の把握をし意向に沿えるよう努めている。	入居時に既往歴や生活歴を確認している。言葉を発しない方へは、日常生活の様子を職員から聞き取りをして把握している。お風呂では世間話や会話が弾むことが多い。「家族に会いたい」という利用者へは、医院長の了承の基、会う機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、一人ひとりの生活歴を把握し、職員間で共有し、サービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや排泄チェック等を行い、介護記録や食事量等をスタッフ全員で把握し、一人ひとりの心身状態、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状況を把握し、今後の課題とケアについて職員間で意見を出し合い、現状に合ったプランを作成している。また、状況に応じて医師に相談している。	介護計画は、入居時、1ヶ月、3ヶ月、半年で作成している。ドクターや家族の意見を参考にして、プランを立て、その際に同意書を交わしている。半年に1度モニタリングを実施し、カンファレンスにて職員間で意見交換をしている。介護記録は全職員がわかるように、略号を使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の生活状況や実践結果を記録して職員間で情報を共有し、サービスに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないことなく、柔軟な対応を心がけ、ニーズに応じたサービスの提供に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていないので公共施設から地域資源の活用方法を学びたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診している。夜間や急変時の対応や必要時には入院対応もできる母体の医療機関との関係も円滑である。	入居時に全員の方が、併設する母体の医療機関に転医しているが、元のかかりつけ医を受診されている方もいる。週2回、理事長の往診がある。利用者の体調に変化があった際には、すぐに駆けつけてくれたこともあり、職員・利用者の安心に繋がっている。他科や歯科受診は、家族が連れて行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である医院の看護師が相談や痰吸引等の処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には看護師との情報共有を行い、入退院をスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族との話し合いを行う中で、家族の希望を踏まえて、先生の方針もあるのでその状況に応じて対応している。	看取りは実施している。入居時に看取りの指針にて説明し、同意を得ている。看取り期に差し掛かった場合には、医院長の意見を聞いた上で判断している。母体の病院が併設しているので、安心して任せることができている。看取り研修も実施していて、終末期の迎え方や延命治療について学びを深めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には母体の医院の院長の指示を仰いでいる。避難訓練時、消防署に依頼し、応急手当や初期対応の訓練を受け、実践力を身につける様に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で災害時や夜間の訓練も利用者と共に、避難経路・避難方法を確認している。地域との協力体制を築いて行きたい。水・食料は3日間分程度確保している。	年2回昼想定で火災訓練をコロナ対策をした上で実施した。防災計画は、直接持参している。連絡網は事務所に掲示し、避難経路は訓練時に確認している。備蓄は、水や食料、栄養補給ドリンクを3日分程度、食堂で保管しているが、併設する厨房にも備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をスタッフ間で注意し合いながら心掛けている。	基本呼称は苗字に「さん」付け。職員と同性の利用者は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。反応がいい場合には、別の呼び方をする場合もある。居室を掃除する際には、「掃除するね」と言葉を掛け、ノックをしてから入室している。トイレにカーテンをかけることでプライバシーの配慮もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を汲み取り、自己表現・自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、こちらのペースに合わせるのではなく、ご本人の思いを大切に、ご自分らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容師に希望の髪型にしてもらったり。入浴時には好みの洋服を職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立に基づき、職員が手作りしている。職員と一緒におやつ作りをしたりしている。後片付け・掃除も手伝っている。	併設する厨房が献立を考えて、下準備もして頂ける。調理は施設内でして、職員も一緒に食卓を囲んで食べることで、会話が弾んでいた。行事食として、巻き寿司やケーキ、日曜日にはデザートも提供する。コップ、茶碗やお箸(スプーン)は馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた献立を栄養士が作成している。牛乳以外にも野菜ジュースも飲んでいる。食事量低下の時にはドクターの指示で栄養補助食品も摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後行い、清潔保持に努めている。また、定期的に義歯洗浄剤を使用し、除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者の排泄リズムを把握し、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導やパット交換をしている。	排泄チェック表を活用し、便が出ていない方へは医師と相談している。1日中、布パンツで過ごしている方も数名いて、紙パンツで入居された方が、布パンツに改善された事例もある。食事前や車イスの方へは、職員から言葉掛けをすることでトイレ誘導ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳や野菜ジュースの飲料や適度な運動も心掛けている。献立も野菜が多く摂れるメニューになっている。それでも排便がない時は、薬剤によりコントロールも行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。無理強いはせず、時間やタイミングを見ながら声かけし、気持ちよく入浴できるよう努めている。足浴やシャワー浴、清拭等個々に沿った支援をしている。	週2回。2階の浴室はジャグジーがついていて、入浴が楽しみな方もいる。入居時にシャワー浴しかなかった方が、湯船に浸かれるようになった事例もある。現在、入浴を拒否される方はいない。入浴されなかった方へは、足浴をしながら、清拭をして清潔感を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、日中でも居室で休まれたり、夕方でも外出後に休まれたりする。就寝前には必ずトイレを済ませるよう声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を把握し、きちんと服薬できるよう支援している。利用者別の薬一覧があり、職員も効能を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いが出来る方には決まった役割を持ってもらい、毎日のレク活動やカラオケ、季節の行事、誕生日会、おやつ作り等、楽しみや気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出は控えているが、外に洗濯物を干したり、庭で煙草を吸ったりしている。	リハビリ体操の後、広いリビングを活かして歩行訓練をしている。毎日のレクも豊富で、午前・午後の2回開催しており、玉入れ、輪投げ、脳トレ、塗り絵、ちぎり絵、歌、習字をすることでフラストレーションが溜まらないようにしている。お正月には、すごろくや福笑いを楽しんだり、春には、施設内で咲いた桜の花を見たりして過ごしている。	室内でも外出した気分が味わえる工夫をしてみたいかがでしょうか。また、コロナ終焉に向けて、今から外出計画を立ててみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方の預り金は実施していないが、要望により数人の方の預り金を行い、欲しい物を職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により、その都度家族に連絡を取る支援を行っているが、電話は家族の負担にならない程度にしている。希望により、競馬の賭け事の楽しみも毎週土・日にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の間のフロアは広く、ベランダの窓が高いので明るく遠くまで景色を眺めることができる。フロアでは歩行訓練をしたり、運動会等の行事を行っている。つるし飾、ちぎり絵等、季節ごとに変えて四季を感じられるよう工夫している。	リビングの窓から見える長閑な田園風景が、利用者の癒しとなっている。元気よくリハビリ体操をしたり、歩行訓練器具使うことで健康維持に努めている。1階の壁面は、紅葉をイメージした利用者の手形を集めて作った木の作品が飾られていた。2階は安全に配慮してソファを固定したり、柵を設けたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは隣に座った方と談話したり、テレビを観たり、一人窓辺で外の景色を見たり、フロアを散歩しながら貼ってある写真を見たりと、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使っていた馴染みの物を置いたり、家族の写真やぬいぐるみ等を飾っている。職員手作りの誕生日カードを飾ったりと、利用者が穏やかに過ごせるよう雰囲気作りをしている。	備え付けは、エアコン、ベッド、ダンス。誕生日には、職員からプレゼントされた色紙が飾られていて、100歳まで生きる目標となっている。1日のスケジュールや持ち物表を貼ることで、利用者の動きがわかるような工夫が見られた。居室内では、ゆっくりTVを観て過ごしたり、毎週の競馬予想を楽しんだりしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには歩行や移動の際に妨げになる様な物を置かない様にして、安全に自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない